普通課程

2年

定員20人

自動車整備士養成施設

自動車整備科

特色

◆県北唯一の2級自動車整備士養成施設です。（修了後2年間実技試験免除）
◆ 2年間の訓練で2級自動車整備士の資格の取得を目指します。

実習環境

◆実習場は、自動車整備認証工場として、中国運輸局から認証を受けており、基礎的な整備技術を習得するための環境が整っています。

就職状況

◆修了生の大半が県内企業（カーディーラー、整備専業工場等）の自動車整備士として就職しています。

指導員から

元気で車好きの若者が自動車整備士を目指して頑張っています。
最初はカタカナの多い専門用語にとまどう生徒も。分からないことはどんどん質問して２年後にはぐんと成長しています。
最近は自動車整備士として活躍する女性も増えています。

<table>
<tr><th>訓練期間</th><th>定員</th><th>課　程</th><th>応募対象年齢
（令和7年4月1日現在）</th><th>実習教材費</th></tr>
<tr><td rowspan="2">2年</td><td rowspan="2">20人</td><td rowspan="2">普通課程</td><td rowspan="2">18歳以上30歳以下
（高等学校卒業者）</td><td>１年次58,000円</td></tr>
<tr><td>２年次34,000円</td></tr>
</table>

<table>
<tr><td colspan="3">訓　練　目　標</td><td colspan="2">自動車の整備に必要な機器工具の取扱いができるとともに、自動車の整備及び運転作業ができ、指導員の指示のもとで自動車の検査作業ができる程度の技能及び関連知識について 訓練し、将来の中堅技能者としての素地を与えるとともに職業人としての自覚を得させる。</td></tr>
<tr><td colspan="3">仕　上　が　り　像</td><td colspan="2">・基本計測器による各種測定ができる。
・各種工具及び工作機械の取扱いができる。
・安全作業及び衛生作業がよくできる。
・各種エンジンとその付属装置及びシャシ、ボディ、電気装置の整備ができる。
・各種車両において自動車関連法規に基づく検査及び故障原因探求ができる。</td></tr>
<tr><td colspan="3">資格取得目標
《　》内は受験料
で別途必要です</td><td colspan="2">・ガス溶接技能講習《12,980円》・アーク溶接特別教育《22,110円》
・自由研削用と石取替等業務特別教育《11,220円》・低圧電気取扱特別講習《5,005円》
・危険物取扱者乙種第四類《4,600円》・中古自動車査定士（小型）技能検定《18,150円》
・２級自動車整備士（総合）技能検定</td></tr>
<tr><td colspan="3">対　応　職　務</td><td colspan="2">点検整備　緊急整備　分解整備</td></tr>
<tr><td rowspan="11">訓練の内容</td><td colspan="2">科　　目</td><td>科　目　の　概　要</td><td>時限数</td></tr>
<tr><td rowspan="5">学科</td><td>自動車工学</td><td>自動車の構造性能　自動車の力学　電気電子理論
材料　燃料潤滑剤　製図</td><td>650</td></tr>
<tr><td>機器の構造・取扱い</td><td>整備作業機器　計測及び点検機器
エンジン関係機器　電気関係機器</td><td>40</td></tr>
<tr><td>自動車整備</td><td>エンジン整備　シャシ整備　電装整備
車体整備　故障原因探求</td><td>210</td></tr>
<tr><td>その他</td><td>生産工学概論　安全衛生　関係法規　自動車検査</td><td>524</td></tr>
<tr><td colspan="2">学　科　計</td><td>1,424</td></tr>
<tr><td rowspan="4">実技</td><td>基本実習</td><td>測定基本　工作基本
安全衛生作業法</td><td>120</td></tr>
<tr><td>自動車整備実習</td><td>エンジン整備　シャシ整備　電装整備
車体整備　故障原因探求</td><td>1,200</td></tr>
<tr><td>自動車検査実習</td><td>自動車関連法規に基づくエンジン検査　シャシ検査
電装検査　車体検査</td><td>60</td></tr>
<tr><td colspan="2">実　技　計</td><td>1,380</td></tr>
<tr><td colspan="4">合　　計</td><td>2,804</td></tr>
</table>

<table>
<tr><td>年　度</td><td>R03</td><td>R04</td><td>R05</td><td rowspan="2"><主な就職先>
ゲイビ車輌㈱、トヨタL&F広島㈱、トヨタカローラ広島㈱、広島日産㈱、広島日野自動車㈱、プライムエンジニアリング㈱、ボディワーク＆ペイントショップスマプラ、㈱井上自動車、㈱サンチューエンジニアリング、㈱スズキ自販広島、㈱小笠原オートショップ、㈱新和自動車、広島トヨタ自動車㈱、広島トヨペット㈱、広島日産自動車㈱、広島日野自動車㈱、三菱ふそうトラック・バス㈱、㈱三輪モータース、二村自動車㈱、尾道ダイハツ販売㈱、福山三菱自動車販売㈱　等</td></tr>
<tr><td>修了者就職率</td><td>100%</td><td>100%</td><td>100%</td></tr>
</table>

ハロートレーニング 急がば学べ

広島県立 三次高等技術専門校

〒728-0014　三次市十日市南六丁目14-1
TEL.0824-62-3439　FAX.0824-63-6888

応募方法等は、募集要項または校ホームページで確認してください

自動車整備士の仕事について ※出典：job tag（厚生労働省職業情報提供サイト（日本版O-NET））

どんな仕事？

自動車は、バスやタクシーのように人々の移動を支えたり、トラックのように物流の基盤を支えたりして、私たちの暮らしには無くてはならないものとなっている一方で、数多くの部品で構成されており、走行するに伴って劣化・摩耗が進み、その構造や装置の性能が低下するものである。そのため、自動車の走行の安全確保、及び有害排出ガスや騒音の抑制などの環境保全のために点検・整備が必要であり、その点検・整備を実施するのが自動車整備士である。さらに近年、技術開発の進展の結果、自動車には数多くの電子機器が搭載されるようになっており、その不具合の対処のため、専門的な技能を有する自動車整備士の役割は、ますます重要となっている。
自動車の点検・整備には、定期的に各部を点検し、機能の低下した部分を整備する定期点検整備と、交通事故などによる破損箇所の修理や、異常箇所の整備などがある。自動車は車種によって構造が異なるため、自動車の種類、エンジンの種類、部位別などにより整備分野が分かれている。
自動車整備士は、整備工場に持ち込まれた自動車について、原動機(エンジン、モーター)、操縦(ハンドル)、制動(ブレーキ)、緩衝(サスペンション)、動力伝達(トランスミッション)などの各装置や燃料・電気関係の部品などを点検し、性能が低下及び故障している箇所を発見し、お客様に説明して部品を交換・修理することが仕事である。

タスク（職業に含まれる細かな仕事）

・不具合のあった部分を修理、または交換する。
・エンジン、操縦、制動、緩衝、動力伝達などの各装置や燃料・電気関係部品などを点検する。
・車両を点検した結果、損傷や不調の程度を顧客に説明する。
・自動車の定期点検をする。
・ブレーキの修理、部品の付け替え、交換、調整をする。
・ワイパーなどの装備品の消耗または破損部分を交換して据え付ける。
・車検をする。
・緩衝器を修理または交換する。
・ラジエータの漏れを修理する。
・計器盤の配線を直す。
・手動式および自動変速機を修理する。
・損傷を受けた自動車の車体を修理する。

統計データ（広島県）

就業者数 ：	8,900 人	年 齢(平均)：	35.4歳
労働時間(月間)：	167時間	求人賃金(月額)：	19.6～28.7万円
賃 金(年収)：	470.7万円	有効求人倍率 ：	7.35

就業するには？

就業先としては、一般的に整備工場となるが、整備工場に就職するには、国家資格である自動車整備士の資格を取得している方が有利である。一方、資格を取得していなくても就職することは可能であり、整備工場に就職後、勤務をしながら夜間や休日に講習を受けられる養成施設（自動車整備技術講習所）に半年～1年半通い、資格を取得することも可能である。また、自動車整備に関して学ぶ工業高校の自動車整備科や、自動車整備の専門学校等の出身者だけでなく、高等学校や大学などで機械や電気に関する基礎的な知識を学んでいると有利である。
このほか、自動車の運転免許や危険物取扱者乙種第四類、ガス溶接技能者、アーク溶接技能者（基本級）の資格があれば入職に有利となることが多い。上記については、中途採用の場合も、同様である。
自動車整備士の資格を取得するには、整備専門学校等の養成施設に通う方法と、前述のとおり整備工場で働きながら養成施設（自動車整備技術講習所）に通う方法がある。これらの養成施設を修了すると実技試験が免除となり、学科試験のみの受験となる。
進化を続ける自動車は、近年、カメラやセンサーなどの電子技術が多く導入されるようになり、構造や装置は、複雑化、精密化している。そのため、自動車整備士が仕事をするためには、新たにスキャンツール（自動車の電子的な故障の原因究明に必要な機器）を使いこなすための知識や、新技術に対応できる技術力が要求されるようになっている。さらに、環境や騒音などの各種規制は年々強化されており、変化する規制に対応する新たな整備方法や検査方法を学び続けることも必要である。

労働条件の特徴

自動車は法律によって所定の期間ごとに必ず点検・整備及び車検を行わなければならないため、職場（整備工場）は全国にあり、メーカー系自動車販売会社（自動車ディーラー）の整備工場や点検・整備を主な事業とする専業工場などがある。
地域に密着した業態のため、自動車ユーザーの利便性を第一に考えて、日曜・祝日に営業したり、夜間に営業することが多かったが、最近は従業員の働き方を最優先と考えて、休日を交替制にしたり、週休二日制を採用する企業も増えてきている。なお、外気が入る作業場であり、騒音、振動の発生、油脂による汚れなどがあるが、最近は空調設備の導入や電動車（電気自動車やハイブリッド車）を整備する割合が増加していることにより、そのようなことは減っている。
就業者のうち、整備士数は約33万人、女性は約1万人（2023年6月時点＊）となっており、男性の整備士の割合が高いが、業界全体で女性に配慮した働く環境の整備や省力化機器の導入などにより女性の整備士も積極的に採用する傾向にある。
最近では、衝突被害軽減ブレーキなどの先進安全技術や電動車などの普及に伴い、国家資格である自動車整備士資格を持つ者が求められている。

*一般社団法人日本自動車整備振興会連合会、令和5年度自動車分解整備業実態調査結果の概要について